

京田辺市次世代育成支援行動計画(後期)新規・拡充事業の一覧表(平成24年度)

★:新規事業・・・5事業

	事業名	施策目標・分野	内 容	担当課	記載 箇所	24年度実績	評価
★1	京田辺市健康増進計画の策定及び実施	母と子の健康づくり支援	京田辺市健康増進計画・食育推進計画に係る重点プロジェクト毎(栄養・食生活、運動、こころ、たばこ)に行動計画を立て実施する。	健康推進	P70	京田辺市健康増進計画・食育推進計画に係る重点プロジェクト毎に行動計画を立て、既存事業に加え、新規事業を実施した。 ○栄養・食生活 食生活改善推進員養成講座 受講者75名 広報掲載「いきいきレシピ」 2か月に1回(6回) 調理実習講師派遣 (小学校3校) ○こころ ホームページ掲載 1回 ○たばこ 禁煙教室 1回 参加者25名 協議会2回開催 ワーキング部会2回開催	重点プロジェクト毎の行動計画に基づき、協議会及びワーキング部会での意見・助言をふまえながら、事業を実施することができ、妊娠・出産期からライフステージを通じて母と子の健康づくりや子どもの心身の健やかな発達を支援する取り組みが進んだ。
★2	食育推進計画の策定及び実施	〃	京田辺市健康増進計画・食育推進計画に係る重点プロジェクト(栄養・食生活)の行動計画を立て実施する。	健康推進	P72	京田辺市健康増進計画・食育推進計画に係る重点プロジェクト毎に行動計画を立て、既存事業に加え、新規事業を実施した。 ○栄養・食生活 食生活改善推進員養成講座 受講者75名 広報掲載「いきいきレシピ」 2か月に1回(6回) 調理実習講師派遣 (小学校3校) 協議会2回開催 ワーキング部会2回開催	重点プロジェクト毎の行動計画に基づき、協議会及びワーキング部会での意見・助言をふまえながら、事業を実施することができた。食のプロジェクトでは、各課の情報共有ができ、横断的に取り組むための各課の役割が明確になった。地域との協働が課題であるが、食生活改善推進員養成講座を実施し、地域のボランティア活動の基盤が強化された。
★3	子育て短期支援事業(ショートステイ事業)	仕事と子育ての両立支援、子どもの虐待防止対策の推進	保護者が疾病、疲労その他の身体的若しくは精神上又は環境上の理由(父子家庭の父が長期出張等)により家庭において児童を養育することが一時的に困難になった場合や緊急避難として一時的に児童を養育・保護を行う為の短期間の施設での預かり事業。	子ども福祉 子育て支援	P77 P90	平成25年4月からの実施に向けて、要綱の制定、委託先(2か所)との調整を行った。	仕事との両立だけでなく、親の育児疲れや負担感を軽減する施策として現在は、一時保育、ファミリーサポート事業で対応している。泊りのサービス提供がないため、平成25年4月からの実施に向けて、要綱の制定、委託先との調整を行った。
★4	子ども手当の支給	心身を健やかに育む子育て環境の充実	子どもを養育している者に子ども手当を支給することにより、次代の社会を担う子どもの成長・発達に資する。中学生までの子どもを養育する保護者対象。	子ども福祉 子育て支援	P84	支給児童 延べ19,898人 支給総額 221,935,000円(24年4月分から児童手当に変更)	子ども手当受給者は、4月から児童手当に移行し、継続して受給。対象者に制度の周知を図り、6月に現況届の受付を行い、支給事務が適正にできた。
★5	子どもの遊び場情報誌の作成	情報提供の充実、地域における子育て支援の推進	市内の自然や施設における遊び場を収集した情報誌を作成し子育て家庭に配布	子ども福祉 子育て支援	P91 P92	あそびばマップは同志社大学のルームプロジェクトにおいて、学生による企画運営が進め、マップのデータが完成。	遊びを通じた仲間づくりや親子が安心して遊べる場の情報集約ができた。学生主体での運営を目指していたため、スケジュールが滞る時期があったが、メールでの情報提供なども活用し、なんとか目標を達成できた。学生と一緒に事業を進める時はスケジュールの調整が運営していく上で重要と感じられる。

	事業名	施策目標・分野	内 容	担当課	記載箇所	24年度実績	評価
☆1	子どもの事故防止、救急対応等の教育及び情報誌の作成	母と子の健康づくり支援、子育て情報提供、子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり	子どもの事故防止等救急対応に係わる衛生教育の実施及び救急処置に係わるパンフレットの発行。	こども福祉子育て支援	P70 P76 P96	10か月発達相談時、事故予防パンフレットを配布。582人 1歳6か月健診時、パンフレットを食生活改善推進員が配布。632人	健診の機会を利用して、約90%以上の保護者に事故防止の喚起が定着した。
☆2	伝統食等の調理実習	母と子の健康づくり支援	児童館等において、郷土食の調理実習をつうじて伝統食を学ぶとともに、高齢者との交流を図る。	こども福祉子育て支援	P72	「おたのしみ寿司をつくってみよう」(5月19日開催:大住児童館) 小学生19名 高齢者2名	高齢者に調理の指導をいただき、伝統食を取り入れた事業を実施できた。世代間交流を通し、地域ぐるみの子育て支援の取り組みにつながった。今後は引き続き、実施することで事業を定着させていくことが大切である。
☆3	保育所・幼稚園学校における食育事業	〃	保育所通所児に食育事業を実施 幼稚園、学校等における食育の指導 食農体験・学校給食等における地元産野菜の導入	こども福祉子育て支援	P72	各所とも行事食の実施、展示食の実施を行った 各所の給食において、地産地消の拡大を行った 給食だよりを年間12回発行	食育推進計画の策定により、ライフステージをととした食育を推進する方向性は示され、乳幼児から青年期における食生活のありかたが生涯の基盤をつくることから、今年度は各課での取り組みが行動計画として明確化された。保育所や学校では季節の食材を紹介したり、食習慣や食文化など年間を通して指導ができた。また、おたよりや広報・ホームページなどを通じて市民に周知し、地域や家庭でも継続して実施できるような取り組みが必要。
				学校環境整備		・小学校全校に栄養教諭又は管理栄養士が配置されたことで、一層各校の食育を進めることが出来た。 ・給食において、行事食の実施、地産地消の推進を行った。 ・市立小学校で「しょくいくだより」「こんだてだより」を発行し、食育の指導に努めた。(しょくいくだより:年11回発行、こんだてだより:年9回発行) ・食に関する指導計画に基づく教科書横断的な指導を実施した。	・小学校新1年生保護者対象に給食試食会を実施し、小学校の給食や食育について知らせることが出来た。 ・給食週間はお茶をテーマにし、京田辺市の玉露の作り方等をポスターで掲示したり、お茶を使った給食を実施することで京田辺の特産物をアピールすることが出来た。 ・しょくいくだよりを教育委員会ホームページに掲載し、市民に周知することが出来た。 ・食に関する指導計画に基づく教科書横断的な指導に加え、小学校全校統一の指導案に基づく食育指導を進めることが出来た。
				学校教育			
				農政		普賢寺地域における収穫イベントを実施した。市内小学校でお茶の淹れ方教室を実施した。学校給食における地産地消として、京田辺産の米、たけのこ、シロナ、大根、海老芋、タマネギ、ジャガイモ、黒豆、えんどう豆、なす、天王の味噌に加え、平成23年度からは一休寺納豆の使用を復活。特産物の使用を推進。	収穫イベントの実施により、栽培から収穫の体験を通じて、児童・園児に農業の大変さと栽培過程を学んでもらうことができた。市内小学校でお茶の淹れ方教室を実施し、特産物について学んでもらうことができた。学校給食への地元産野菜の導入により、地産地消を推進できた。
☆4	子どもの医療費の助成	母と子の健康づくり支援、子育て環境の充実 心身を健やかに育む子育て環境の充実	通院及び入院に係る医療費の一部助成の拡大を実施し、子育て家庭への経済的支援を行う。	こども福祉子育て支援	P73 P84	平成24年4月診療分から入院外を小学6年生まで対象年齢を拡大。 入院:788件 34,206千円 入院外:120,596件 208,735千円	入院外を小学3年生までから小学6年生まで対象年齢を拡大したことにより、利用件数が大幅に増加していることから、周知が徹底され、子育て家庭への経済的支援ができた。
☆5	児童虐待防止のパンフレットの配付	子育てに係る意識啓発並びに情報提供の充実 子どもの虐待防止対策の推進	市民の通告等により、虐待の早期発見・早期対応の充実を図るため、市民への啓発のためのパンフレットの充実。また、子どもに係わる仕事等をする人へもより知識を深めていただくため、マニュアルを作成し、配布する。	こども福祉子育て支援	P74 P76 P89	「STOP!子ども虐待」リーフレットを街頭啓発・アルバム・産業祭・歯のひろば・市民講演会・民生児童委員活動にて配布 3,865枚 こども虐待予防啓発チラシ配布(講演会のチラシの裏面)13,000枚 こどもSOSカード 小学校入り口に設置 180枚、小学3年生に配布 691枚、随時 相談啓発カード配布 随時 児童虐待対応マニュアル配布 随時	11月に児童虐待防止推進月間として、街頭啓発等を通じて市民や医療機関・各種教育機関・子どもにかかる関係機関・商工会会員店舗等に子ども虐待予防啓発チラシを配布した。家庭児童相談室の相談件数も増加し、市民へ一定の周知が図れた。また、相談体制の充実を図るため、専用相談メールの準備を行った。

	事業名	施策目標・分野	内 容	担当課	記載箇所	24年度実績	評価
☆6	子育てひろば事業	子育てに係る意識啓発及び情報提供の充実、心身を健やかに育む子育て環境充実	新たな地域子育て支援拠点として、あそびの広場、預かり保育、相談・交流事業、支援者養成講座の事業を通じて地域における子育て支援活動を展開する。	こども福祉子育て支援	P74 P80	子育てひろばでふてふ利用者 9,658人(4~3月分)	開設から3年目となり、様々な企画の実施しており、乳幼児を対象とした地域の子育て支援拠点として定着した。集団になじめない親子もいる中、ひろばは自由にいけることから好評だが、リピーターが多く固定化していることは課題である。本来必要である人に周知が必要であり、今後は地域力を高め地域のサロン等紹介するなどその人らしく参加できる場の紹介が必要であり、情報提供の方法やほとんどの方が来る健診等での呼びかけを強化していく。
☆7	ホームページによる情報発信の充実	子育てに係る意識啓発並びに情報提供の充実	ホームページにおける子育て情報の内容の充実を図る。	こども福祉子育て支援	P76	子育て支援事業、相談事業等を掲載	各種の事業案内等の記事を掲載し、子育て家庭への情報提供のツールとして定着してきている。
☆8	地域子育て支援センター・子育てひろばからの情報発信	子育てに係る意識啓発並びに情報提供の充実	子育てひろばの開設により、子育てに係る情報を積極的に発信する。	こども福祉子育て支援	P76	てふてふだより1回/2か月・センターだより 1回/月(センター及び児童館・市役所等での設置) 子育て支援事業、相談事業等を広報紙に掲載している(原則2回/月)	毎月、季節に応じた子育ての工夫やワンポイント、事業掲載をしており、特に施設の利用者に情報提供のツールとして定着している。
☆9	子育て外遊びマップの発行	情報提供の充実、地域における子育て支援の推進	京田辺市の自然について生かした遊び場情報を子育て親子等に伝える為、外遊び情報誌の作成し、家族交流や仲間づくり等を促進する。	こども福祉子育て支援	P76 P92	子育てマップ2000部印刷 市役所・子育て支援センター・ひろばで配布	作成、配布までに時間を要し平成24年度中の配布が大幅に遅れたが、これまでの地図とスタイルを変更し、情報をまとめて見やすく改善した。
☆10	児童館における子どもとのふれあい体験事業	子育てに係る意識啓発並びに情報提供の充実	児童館において、児童・学童が乳幼児と触れ合う機会をつくり世代間の交流を図る。	こども福祉子育て支援	P76	(六ヶ丘児童館) ・児童福祉週間:人形劇 5月 小学生26名・乳幼児親子169名 ・南陽高校 マジック部がやってくる!8月10日 小学生50名・乳幼児親子31名 ・家族の日 人形劇を家族で観よう!11月17日 小学生 6名・乳幼児親子87名(普賢寺児童館) ・人形劇 12月12日 小学生50名・幼稚園児48名・乳幼児親子36名	各種の催し物を通じて時間を共有する中で自然な交流ができた。
☆11	ファミリー・サポート・センター事業の推進	母と子の健康づくり支援、仕事と子育ての両立支援	通常の預かりに加えて、早朝・夜間等の緊急時の子どもの預かり等の拡大を図る。	こども福祉子育て支援	P70 P77	【活動件数】2,651件【会員数】依頼(おねがい)会員 297人、提供(まかせて)会員 103人、両方(どっちも)会員28人。合計428人 広報紙等で随時募っている。目標:会員数300人(依頼、援助 共) 目標達成	全体の会員数としては達成しているが、依頼(おねがい)会員の登録が増える中、活動件数も増加している。提供(まかせて)会員の登録をさらに増やすため、継続して周知を徹底する。
☆12	病児・病後児保育事業	仕事と子育ての両立支援	病後児の預かりに加えて、病児における預かり保育の拡大を図る。	こども福祉子育て支援	P77	病後児保育 66人 希望者全員の受け入れができた。 平成25年度開始の病児保育開設に向けて、医療機関と調整を行った。	病後児保育については、希望者全員の受け入れができた。 平成25年度開始の病児保育開設に向けての準備ができ、仕事と子育ての両立を支援する施策が拡充された。
☆13	民間保育所の整備補助	保育環境の充実	老朽化に伴う安全性の確保、待機児童の解消を図るため、みみづく保育園新築移転について検討を行う。	こども福祉子育て支援	P79	みみづく保育園移転用地造成工事に着手した。	平成26年度みみづく保育園の新園舎開所に向けた、関係機関との調整が重要となる。

	事業名	施策目標・分野	内 容	担当課	記載箇所	24年度実績	評価
☆14	放課後子どもプラン	子どもの居場所づくり及び多様な保育サービスの充実	児童が放課後を安全で健やかに過ごせる居場所づくりと地域との世代間交流を図る為、各小学校区等において体験学習等の事業を実施。今後は、全ての小学校区等に拡大する。	社会教育・スポーツ推進課	P77 P83	年間実施日数 88日 野外活動センターと市内全9小学校で実施 子どもの参加延べ人数4,471人	児童の居場所づくりと世代間交流を図る事業をすべての小学校区で実施し、希望者全員の受け入れができた。
☆15	第2次市男女共同参画計画の策定と事業の推進	男女の共同子育ての推進	新たな時代の要請に応え、目指す男女共同参画社会の将来像について計画策定するとともに、施策を総合的・計画的に推進する。	市民参画	P78	第2次京田辺市男女共同参画計画の事業の推進 計画掲載事業 138事業 うち平成24年度中に実施予定であった事業 135事業(残りの3事業は平成25年度以降に実施) 実施状況 実施 128事業(構成比94.8%) 未実施 7事業(構成比 5.2%)	第2次京田辺市男女共同参画計画に基づき、各施策を実施した。
☆16	家庭支援推進保育事業	心身を健やかに育む子育て環境の充実	家庭において特に配慮を要する保育所児童に対する家庭支援し、家庭支援推進保育士を設置。	こども福祉子育て支援	P79	公立4保育所に 各1名の保育士配置	継続して公立4保育所に 各1名の保育士配置し、家庭において特に配慮を要する保育所児童に対する家庭支援を実施した。
☆17	保育所、幼稚園、小・中学校等施設の計画的な改善	〃	施設の維持管理及び公共施設における環境整備を計画的に行う。	こども福祉子育て支援教育総務学校環境整備	P79	○保育所 三山木保育所に仮設園舎を建設した。(定員50人増) ○小学校 耐震補強工事に併せて、桃園小学校及び普賢寺小学校屋内体育館の大規模改修工事を実施した。 三山木小学校増築事業の基本設計及び実施設計を行った。 ○中学校 田辺中学校管理棟新築工事を実施した。 耐震補強工事に併せて、培良中学校屋内体育館の大規模改修工事を実施した。 中学校空調設備設置工事を実施した。 ○幼稚園 田辺幼稚園・松井ヶ丘幼稚園の園庭整備を実施した。	○保育所 三山木保育所に仮設園舎を建設したことで定員が増え、4月1日時点で入所希望者すべてが保育所に入所できた。(国基準4月1日現在で待機児童0人) ○学校 学校の大規模改修事業や幼稚園の園庭整備を実施するとともに、中学校に空調設備を設置し、良好な学校教育環境の改善整備を計画的に行うことができた。
☆18	小・中学校でのカウンセラー等専門家による教育相談	心身を健やかに育む環境の充実、子どもの虐待防止対策の推進	臨床心理士の資格を有するカウンセラーを配置し、学校復帰や進学等に対する支援と保護者への相談体制の充実強化を図る。	学校教育	P81 P89	小・中学校で教育相談を実施し、精神衛生面での支援や不登校生徒・保護者への支援、学校に対するコンサルテーション機能を果たしている。 ・小学校(市事業) 実施回数99回、相談件数381件 ・中学校(府事業) 相談件数 実件数69件、相談人数 延べ519人	H27年度からの実施であるが、生徒や保護者にも相談事業が浸透し、有資格者のカウンセラーが、精神衛生面での支援や不登校生徒・保護者への支援、学校に対するコンサルテーション機能を果たしている。
☆19	児童扶養手当	ひとり親家庭への経済的支援	父子家庭に対する児童扶養手当を拡大し、児童の健全育成を図る。	こども福祉子育て支援	P84 P86	支給実人員:414名(内 父子28名) 総支給額:194, 871, 430円	父子家庭の父も手当の対象になったことに伴い(平成22年8月からの制度改正)、戸籍担当課との連携につとめ、制度の周知徹底ができた。
☆20	ヘルパーによる訪問	子どもの虐待防止対策の推進	児童虐待が懸念される家庭に対し、児童の安全確保や虐待の悪化を防ぐ為にヘルパーを派遣し、家事・育児等の支援を行う。	こども福祉子育て支援	P89	産後ヘルパー派遣 8人 (のべ124人)	申請者全員に訪問を行うことで希望に応じたヘルパー派遣が実施でき、産前・産後の不安や負担の軽減が図れた。
☆21	都市計画マスタープランの改訂	豊かな自然環境の活用と保全	今後の土地利用、交通網整備の基本方向、各地域のまちづくりの方針を定め、子どもと子育て家庭にやさしいまちづくりの視点で土地利用、都市整備及び管理体制の構築を図る。	都市計画交通	P93	平成22年度改訂完了	平成22年度にマスタープランの改訂がなされ、安全な道路空間創出のための歩道・緑道整備や交通安全施設の整備についての方針を記載し、子どもと子育て家庭にやさしいまちづくりの方針を定めた。

	事業名	施策目標・分野	内 容	担当課	記載箇所	24年度実績	評価
☆22	きょうたなべ環境市民パートナーシップ活動支援	〃	環境施策を推進するため、パートナーシップ組織の環境保全活動を支援し、子どもと子育て家庭にやさしいまちづくりを推進する。	環境	P93	きょうたなべ環境市民パートナーシップ活動支援 ・環境保全活動及び啓発イベント等への支援(環境フェスタ in KYOTANABE開催、里山整備、エコウォーキング、自転車利用啓発、省エネ相談等、環境授業については 小学校1回幼稚園2回実施)	きょうたなべ環境市民パートナーシップ活動を通じて、次世代へ良好な環境を引き継ぐため、環境保全や省エネ等に関する啓発を進めた。また、小学生や幼稚園児を対象に環境授業を実施することで、子どもたちに環境保全への関心を高めるきっかけづくりができた。
☆23	緑の基本計画策定の見直し	〃	緑地の適正保全緑化推進に関する施策を総合的に進め、子どもと子育て家庭にやさしいまちづくりを図る。	施設管理	P93	緑の基本計画策定の見直しについては現計画において事業展開ができていることから実施は行わず、緑の基本計画に基づき、緑化推進事業を踏襲していく。	緑の基本計画は策定済みであるが、目標とする整備水準に達していないことから、当面、現計画を踏襲していく予定。
☆24	市民団体「京田辺エコパークかんなび」の支援	〃	市民団体の運営及び活動支援をつうじて、子どもと子育て家庭にやさしいまちづくりを推進する。	清掃衛生	P94	京田辺エコパークかんなびの活動(3R推進活動に関する各種研修や学習教室、イベント企画、リユースフェア、勉強会、見学会など)の支援を行った。 新田辺東商店街の空き店舗を利用したエコパークかんなびキララ店と協働して、キララフェスティバルなどにも参加し、ぬいぐるみや食器などのリユース普及活動も行った。	京田辺エコパークかんなびの活動を通じて、「3R」推進に関する啓発ができた。また、小学生の施設見学会でのサイクル体験等とおしてももの大切さを学んでもらうきっかけづくりができた。
☆25	公園里親制度(アダプト制度)の普及	子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり	地域の児童公園等における緑地の日常的な管理(抜根・除草)について、公園里親制度の普及を図り、市民が主体的に公園・緑地の日常的な維持管理に参画できる仕組みを構築する。	施設管理	P94	里親制度モデル事業 花の一休寺道緑化推進事業(H24.6.28実施)	公園里親制度のモデル事業を継続実施しているが、市と市民がお互いの役割分担について協定を結び、継続的に美化活動を進める制度づくりが必要であり、平成25年度の実施に向けて準備を進めている。
☆26	保育所、幼稚園、小・中学校の耐震補強等工事	安心・安全の生活環境の確保	耐震診断の基づき補強工事の実施	子ども福祉 子育て支援 教育総務 学校環境整備	P95	○保育所 必要な耐震補強工事は21年度で終了 ○小学校 草内小学校北校舎棟・南校舎棟東側、桃園小学校屋内体育館、普賢寺小学校屋内体育館について、耐震補強工事を実施した。 ○中学校 培良中学校屋内体育館について、耐震補強工事を実施した。田辺中学校管理棟の新築工事を実施した。	○保育所 必要な耐震補強工事は21年度で終了 ○小・中学校 H19年から耐震化を順次実施し、全小・中学校全校の工事が完成した。児童・生徒が安全で安心して学べる学校環境を整備することができた。

* :22年度新規事業・・・2事業

*印は計画にはなく、平成22年度に取り組んだ事業

	事業名	施策目標・分野	内 容	担当課	記載箇所	24年度実績	評価
*1	ヒブ・小児肺炎球菌予防接種費用助成事業	母と子の健康づくり支援	ヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチン(任意接種)の費用を助成	子ども福祉子育て支援	—	ヒブ・小児肺炎球菌予防接種に対する費用全額助成 2か月以上5歳未満児を対象に、それぞれ1回から4回の接種費用を全額助成 ヒブ のべ2, 360回 小児肺炎球菌 のべ2, 478回 平成25年度の定期接種の準備を実施した	こんにちは赤ちゃん訪問での情報提供や、23年度からの引き続きの事業で、接種数が一定してきており、市民に周知でき、感染症の予防が定着した。また、4月からの定期化予防接種に向けて市民に広く周知した。
*2	子宮頸がん予防ワクチン接種費用助成事業	思春期～青年期の健康づくりの支援	子宮頸がん予防ワクチン(任意接種)の費用を助成	健康推進	—	中1～高1の女子を対象に、1人あたり3回接種の費用全額助成 延べ951回 平成25年度の定期接種の準備を実施した	新規の対象者である中1女子全員に周知できた。継続対象となる中2～高1の女子には、広報及びホームページで周知し、助成事業の促進を図ることで親子に対し、子宮がん予防の周知を行った。また、4月からの定期化予防接種に向けて市民に広く周知した。

* :23年度新規事業・・・2事業

*印は計画にはなく、平成23年度に取り組んだ事業(新規・掲載追加)

	事業名	施策目標・分野	内 容	担当課	記載箇所	24年度実績	評価
*1	施設の安全対策(☆)	安心・安全の生活環境の確保	民間木造住宅の耐震改修工事等の補助	開発指導	—	23年度繰越5戸 24年度33戸+簡易改修2戸	耐震改修件数が前年度より大幅に増え、民間木造住宅の耐震化が促進された。
*2	自転車通学用ヘルメットの貸与	安心・安全の生活環境の確保	自転車通学をしている中学生にヘルメットを貸与し、登下校時の安全確保に努める。	学校環境整備	—	自転車通学をしている中学生にヘルメットを貸与し、登下校時の安全確保に努めた。 ヘルメット137個(Mサイズ47個 Lサイズ90個)を購入し、対象生徒に貸与した。	貸与したヘルメットを装着して通学しているため、事故が起こったときの被害の軽減に寄与できた。また、通学の機会にヘルメット装着について、学校の指導を強化した。